

東アジア戦略概観

East Asian Strategic Review

2006

防衛庁防衛研究所編

The National Institute for Defense Studies, Japan

はしがき

本書は、東アジアの平和と安定を確保するためには、この地域の安全保障環境について客観的な理解が必要であるという認識に基づき、自由な議論の題材をこの地域の専門家に対して提供することを目的として、防衛研究所の研究者が独自の視点から東アジアの安全保障環境を分析したものである。記述の対象期間は、2005年1月から12月までの1年間が中心である。

本書は、2005年に生じた東アジアの安全保障上重要な事象について、国・地域別に章を立てて記述した。そして、この地域の安全保障を考える上で重要と思われる中長期的な課題についても、トピック章として分析している。今回は、第1章で、米軍再編と東アジアの安全保障への影響を分析した。同じくトピック章として第2章では、2004年12月に起きたスマトラ沖大地震・津波に対して行われた地球規模の支援活動を取り上げ、今後の災害救援における国際協力への課題を検討した。そのほかにも本書は、北朝鮮の大量破壊兵器(WMD)問題、中国が進める「周辺外交」と日中関係、さらに台湾問題への対応、スマトラ沖大地震・津波後の東南アジア情勢、ロシアが進めるアジア外交、第2期ブッシュ政権下の米国の安全保障政策、自衛隊が行う国際平和協力活動などについても分析を行っている。本書が、読者にとって東アジアの安全保障環境を理解する一助となり、議論をさらに深める契機となることができれば望外の喜びである。

本書は、防衛研究所の編集・執筆グループが研究者の立場から作成したものであり、政府あるいは防衛庁の見解を示すものではない。各章の執筆担当者は、高橋杉雄(第1章および第8章)、松浦吉秀(第2章)、渡邊武(第3章)、増田雅之(第4章)、恒川潤(第5章)、兵頭慎治(第6章)、片原栄一(第7章)である。また編集作業は、恒川潤(編集長)以下、飯田将史、大江健太郎、菊地茂雄、工藤仁子、助川康、増田雅之が担当した。

平成18年(2006年)3月

防衛庁防衛研究所 統括研究官
近藤 重克